

豊岡市教育研修センターだより



豊岡市教育委員会 R8(2026).1.7

No.12

豊岡市のホームページにもアップしています。豊岡市HP→上段「くらし」→「教育・学校」→「教育研修センター」へ

校内研修担当者研修会より～各校の実践の質の高まり～

提案

学習観の転換にチャレンジする～自分なりの「授業における5つの『徹底・継続』実践事項の創造」～

今、子どもたちの学びに向かう力の育成が求められています。各教科において、例えば、「条件に合った文章を書く力」や「根拠を明確にして説明する力」、「情報を取捨選択する力」等の育成に向けた授業モデルを展開することは、子どもたちの学びの幅の広がりにつながります。市内の先生方お一人お一人が、新しい学習観を視点とした授業にチャレンジしていただければと願います。

★各教科部会より課題解決に向けた指導のポイント※詳細は、二次元コードから確認ください。(裏面記載)

【国語部会】複数の資料から必要な情報を読み取る力をつけさせる。提示された条件を理解し、正しく使って、文章を書く習慣をつけさせる。等

【算数・数学部会】言葉の定義や理解の定着、日常生活と結び付けた理解や表現の定着、系統性を意識した授業の工夫。等

【理科部会】比較・分類・関連付けることを取り入れ論理的思考力を養うことに焦点化した授業実践。

□校内研修の取組及び好事例

【A小学校】

◆児童評価アンケートを活用した授業改善研修

(1) 目的

アンケート結果等をもとに子どものこえを聴いたり想像したりして、学びに向かう力を高めるための授業改善プランを立て、2学期の授業実践の充実につなぐ。

(2) 内容・方法

① アンケート結果を分析し、自身の取組を評価、点検し、授業改善ポイントを考える。【個人 WS 20分】

※授業改善ポイントは「学校経営方針の実践化」「授業研究部の取組」と 関連付けて

② 考えた授業改善ポイントを交流する。【グループ 15分】

③ アンケート結果に表出した学校全体の課題を共有し、その改善方法を考える。【グループ WS 10分】

④ グループで考えた改善方法を交流する。【全体 15分】2分×6学年

⑤ 校長先生より →研修後に、個人の研究シートを改善する。

【B小学校】

■MY PLAN の作成

研究テーマを自分の実践にどのように落とし込むのかを考えて、自分の自身の研修テーマや、具体的な実践を計画する。

■今年度のキーワード「伝え合う力」の実践について、1学期の振り返り。

① 学年部グループに分かれ、成果と課題について話す。

※研究テーマからずれないように、MY PLAN の実践についてのみ。

② 全体で共有し、まとめる。 ③2学期以降の取組へつなげるために、MY PLAN を見直す。

■ロイロノートの活用

○研究授業ではロイロノートの共有ノートを活用し、KJ 法を用いて事後研修会を行う。

○自由参加のプチ研修の内容等を、動画で共有。 ○資料の共有。

■課題別研修

○米澤教授(和歌山大学)による本校児童の事例研修。

■プチ研修

○参加自由の短時間研修を夏休みに開催。

○漢字指導、学力調査をみんなで解こう、AI 活用、モルック

当日の研修会では、八条小学校と但東中学校
に実践発表いただきました。

□校内研修の好事例

【C小学校】

- ◆「観（＝児童観・教材観・指導観）」を磨くことを目指した研修づくり
（＝授業者も参観者も得をする研修→授業力向上へ）

①事前研修会のあり方

- ・共同研究者（授業者の相談役）を設定し、全職員がその役を経験する
- ・授業者の悩みを打ち明ける場と捉える → 授業視点の焦点化へ
- ・授業の山場／見所／授業者の悩みを共通理解し、必要に応じて具体策を練り合い、実践に臨む

②公開授業のあり方

- ・発話記録を役割分担し、必ず記録しておく
- ・事前研修会で共通理解した内容や、提案部分を中心に参観し、各個人でも主だった発話を記録しておく

③事後研修会のあり方

- ・「事後研修会＝授業」という位置づけで臨む。
- ・発話記録（子どもの事実）をもとに、一人ずつ付箋を貼りながら、各自の見取り・解釈を語る。
- ・若手／ベテラン関係なく、語れる雰囲気をつくる。
- ・事後研修会後、授業者へ渡す参観シートのデータを全職員で共有する。
→自分以外の先生の解釈を知り、授業を見取る力を向上させることをねらいとする。

【D中学校】

- 生徒の「学びたい」を引き出す授業づくりを目指し、4つの視点を設定した（A；「問い合わせ」を持たせる授業、B；ICTの活用、C；コミュニケーションの充実、D；学習評価の活用）。A～Dのグループに分かれて実践交流をしたり、その視点を取り入れて研究授業を行った。
- 2学期の教科研究授業に向けて3グループの研究グループをつくった（グループⅠ；社・数、Ⅱ；英・理・美、Ⅲ；保体・音・技家・国）。
それぞれの研究グループで集まって指導案の検討を行い、その後研究授業を行った。先に2グループの研究授業を行い、それを踏まえて3つめの研究授業を行った。3つめの研究授業の際には授業づくりの研究者を招聘して指導助言をもらった。
- 単元ごとの学習評価をより推進するため、教科ごとに学習評価の方法について検討会を持った。家庭学習の充実や基礎学力の定着を目標に、各教科で取り組み、3学期にそれぞれの取り組みの検証を行う。それを来年度の取組につなげる予定にしている。

自校の校内研修の分析

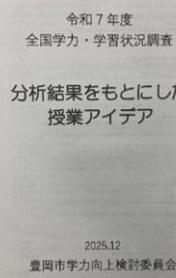


勝見先生からは、「主体的・対話的で深い学び」に向かう授業づくりのアドバイスを示唆いただいている。

- 教科における魅力ある追究の単元の充実、そこで用いる関係付ける思考の具体化。
- めざす授業像における方法・手段の明確化。



- 関係付けの活動設定でとどまっているか。
- 関係付けの活動の深まりをどのように確かめているか。
- 子どもに委ねる際に教員は何をしているか。



これらのこととを常に問いかけながら、令和7年度の下半期、各校の校内研修が「目の前の子どもたちの学び」をさらに深めるものになるよう、進めていきましょう。その際、本研修会で配布しましたアイデア集や自校の校内研修の分析等、様々な知見をぜひ共有ください。